

茨城大学工学部 都市システム工学専攻 平成28年度前期 専攻教育点検報告書

平成28年 10月 7日

報告者 都市システム工学専攻 専攻長 呉 智深

1. 実施日時と場所

平成28年9月28日(水) 15:40-18:30 (170分)

茨城大学日立キャンパス S-2 3F 会議室

2. 出席者

常勤教員：沼尾達弥、金利昭、呉智深、山田稔、小林薫、桑原祐史、井上涼介、原田隆郎、
信岡尚道、藤田昌史、平田輝満、熊澤貴之、車谷麻緒、増永栄治(順不同、敬称略)

(全常勤教員16名のうちの13名が出席)

(常勤教員のうちの欠席者： 横木裕宗、一ノ瀬彩(産休))

非常勤教員：該当者なし

技術職員，教務職員：出席者無し

3. 添付資料

資料1 会議議事録

資料2 議事次第

資料3 平成28年度前期授業点検改善集

4. 授業点検の実際

4. 1 アンケート実施状況

点検評価に先立って実施した，授業アンケートの回収状況は以下のとおり。

常勤教員担当科目分： 15科目／常勤教員担当科目総数16科目

非常勤教員担当科目分： 2科目

(＊ 都市システム工学特別演習Ⅰ、都市システム工学特別研究Ⅰ、サステイナビリティ学特別演習Ⅰ、サステイナビリティ学特別研究Ⅰは専攻独自のアンケート)

4. 2 点検した科目

構造工学特論、地震工学特論、構造解析学特論、土質基礎工学特論、応用水理学特論、土木計画学特論、リスクマネジメント特論、水質工学特論、国土空間情報特論、建築都市計画学特論、建築史・意匠特論、建築都市デザインスタジオ1、建築都市デザインスタジオ2、建築構造デザイン演習、都市システム工学特別演習Ⅰ、都市システム工学特別研究Ⅰ、サステイナビリティ学特別演習Ⅰ、サステイナビリティ学特別研究Ⅰ

(前期に開講した専門科目の総数18科目中18科目実施 100パーセント)

4. 3 具体的な点検方法

- ・ 各科目について、担当教員が授業のあらましを紹介し、その後自己点検書および学生アンケートでの指摘点を中心に授業方法の優れている点、改善すべき点について3分程度自己評価を行った。
- ・ 構造工学特論：授業記録を回覧、紙面で点検報告がなされ、それらを確認した。受講生の理解度をあげる取り組みを継続していることが確認された。
- ・ 地震工学特論：授業記録を回覧し、内容を確認した。耐震、防災の基礎のために、物理数学の説明に時間を費やしていることの報告があった。学部段階において、物理数学の能力改善が必要との報告もあった。
- ・ 構造解析学特論：授業記録を回覧し、内容を確認した。マトリックス解析の説明において線形代数の復習もおこなっていることが報告された。受講生が講義と学部TA業務が重なる時があり苦勞したとの報告もあった。
- ・ 土質基礎工学特論：授業記録を回覧し、内容を確認した。授業内容について、専門的（不飽和の土（空気、三層の力学））で受講生にはレベルが高すぎるかとの報告があった。
- ・ 応用水理学特論：授業記録を回覧し、内容を確認した。授業内容について前年度からの変更点の紹介があった。また配布プログラムの言語はVBAに替えたことが報告もあった。
- ・ 土木計画学特論：授業記録を回覧し、内容を確認した。内容の難しさとボリュームが多いことにクォーター制もともなって、受講生の理解の到達度が低下している傾向がみられるとの報告があった。
- ・ リスクマネジメント特論：授業記録を回覧し、内容を確認した。授業内容にアセットマネジメントを取り入れたところから、確率論の一部が紹介しきれなくなったこと、その対応として学部からの体系の見直しを検討していることが報告された。
- ・ 水質工学特論：授業記録を回覧し、内容を確認した。課題内容について、受講生のコンピュータ言語で計算させているとの報告があった。
- ・ 国土空間情報特論：授業記録を回覧し、内容を確認した。授業内容について、非常勤講師の時間がなくなったため、実務の部分が欠けたとの報告があった。
- ・ 建築都市計画学特論：授業記録を回覧し、内容を確認した。授業内容について、新規開講科目であり、木材を対象に、伐採までも含めたものになっているとの報告があった。
- ・ 建築史・意匠特論：授業記録を回覧、紙面で点検報告がなされた。新しく開講された科目で、アンケート結果も良いことが確認された。
- ・ 建築都市デザインスタジオ2：授業記録を回覧し、内容を確認した。新しく開講した科目で、建築実務の内容、学内インターンシップの位置づけであることが報告された。

受講前までに学生の修得している技術の問題などにより時間外の活動を含めた負荷が高くなったとの報告があった。

- ・ 建築都市デザインスタジオ 1：非常勤講師が担当している科目であること，建築構造デザイン演習と連動しているとの報告があった。資料は別途学科会議で提示されとの報告があった。
- ・ 建築構造デザイン演習：演習内容は一般構造の設計だが，学部の間身に着けておくべき知識が不足するとの指摘があったとの，報告があった。学部の新しいカリキュラムでの改善結果を注意するとの報告があった。資料は別途学科会議で提示されとの報告があった。

4. 4 （専攻の点検報告書のみ）特別実験，特別演習等の実施状況など

本専攻では，以下の特別研究及び演習を大学院の必修科目として実施している。その具体的な実施状況は以下の通りである。

- ・ 平成 28 年度前期には、都市システム工学特別演習Ⅰ、都市システム工学特別研究Ⅰ、サステナビリティ学特別演習Ⅰ、サステナビリティ学特別研究Ⅰの4科目が開講されそれぞれの演習及び特別研究の報告は各研究グループもしくは研究室により別途資料を用いて行われた。
- ・ 構造地震防災グループ：週 1 回のゼミで報告，討議をした。また，関連の調査については，企業訪問等を多数行って実施した。ゼミ資料を保存している。
- ・ 防災・環境地盤工学グループ：月 1 回の研究室ゼミにおいて，PPT とレジメにより報告している。成果として資料をまとめている。
- ・ 金研究室：研究室の毎週のゼミ、前期 2 回の研究グループ報告会、と個人指導の構成で実施しているとの報告がなされた。ゼミ報告資料等として保存しているとの報告もあった。
- ・ 山田研究室：学会発表の準備を進めた。研究室の査読ゼミ，手法ゼミを主催した。計画系教員 3 名でグループゼミを実施した。
- ・ 平田研究室：国際会議等への論文投稿と発表を行った。国際会議の論文は，マンパワーは大変であったが，今後も継続・拡大していく。
- ・ 国土空間情報研究室 桑原研究室：修士論文作成に向けての活動報告を，1 回/週のゼミで実施する。週間活動報告，PPT など保存している。
- ・ 景観・都市デザイン研究室 熊澤研究室：1 回/1～2 週の研究室ゼミにおいて，活動と中間成果をレジメと PPT で報告してもらい確認した。それらを保存している。
- ・ 水圏環境研究室 横木・増永研究室：検討会では，修士論文に向けた取り組み状況や

修士論文の途中経過をレジメと資料、PPTで報告してもらっている。個別ゼミではメモを作成させている。

- ・水圏環境研究室 藤田研究室：検討会では、修士論文に向けた取り組み状況や修士論文の途中経過をレジメと資料、PPTで報告してもらっている。個別ゼミではメモを作成させている。
- ・水圏環境研究室 信岡研究室：月1回のレポートで報告と不定期に学生からの相談で対応している。レポートと日々の活動記録、研究ノートを保存している。
- ・建設材料工学グループ：1回/週の研究室ゼミで修士論文作成に関する研究経過・中間結果、課題等を報告、討議しているとの報告があった。ゼミ資料や発表資料を保存しているとの報告もあった。

5. 点検評価の結果

5. 1 昨年度の点検評価で出された改善策のフォローアップ

昨年度にまとめた改善策は、「各科目における自己点検結果を尊重し、従来通り改善していく。」であった。本年度は新しく開講した科目も複数あったが、他の科目と同様の点検が実施できたことが成果であった。

5. 2 今回の授業方法で優れている点

- ・地震工学特論：学生の能力が低下して修得内容も減っている中、耐震工学上重要な物理数学の知識に関して、妥協せず熱意をもって丁寧に教授している点が、学生にも伝わった点。

5. 3 今回の授業方法で改善すべき点

- ・新しい教育プログラムが開始されるが、従来どおりの、各科目における自己点検結果を確実に実施して、改善を進めていく。

6. 教育改善活動

- ・特筆すべき改善すべき点は無かった。各科目における自己点検結果を尊重し、従来通り改善していく。

7. 報告書の開示

この報告書と同じ内容の書類を学科事務室に備え、学科の全教員が自由に閲覧できるようにした。

8. その他
特になし.